

だいこく通信 第十一号「夏の号」

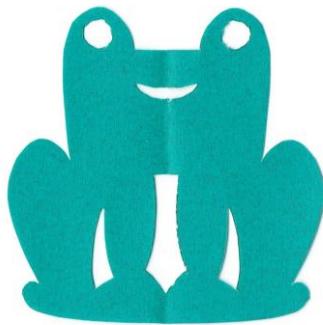
トロピカル

日頃より当神社での神明奉仕にご協力を賜り、ありがとうございます。早いものでもう六月半ば、東京も梅雨入りして、少々うつとうしい陽気が続いております。

社報「だいこく通信」の第二十二号をお届けいたします。

今回の内容は催し物のご案内、神社にまつわる豆知識をお伝えする「お宮あれこれ」、そして、オリジナル・キャラクターが活躍する連載まんがなどです。お楽しみいただければ幸いです。

大國神社 宮司 大島資生



大國神社の今

(1) 「第四回だいこく落語会」を開催しました

お蔭様をもちまして、去る五月十六日、第四回だいこく落語会を盛況のうちに開催することができました。ご来場くださいました皆様、ありがとうございました。古今亭菊之丞師匠によ



り「幫間腹」「付き馬」二席をたっぷり聴かせていただきました。師匠の巧みな語り口、洗練されたしぐさで、江戸情緒を満喫することができました。本物の伝統芸能に触れたひとときでした。「だいこく落語会」は今後も継続してまいりたいと存じます。

次回の予定が決まり次第、改めてご案内いたします。

どうぞご期待ください。

(2) 催し予告

今年は次の催しを予定しております。

六月二十七日（土）午後二時より

第一回だいこくセミナー

小島ゆかり先生講演会「短歌をたのしむ」

小島ゆかり先生プロフィール

1956年愛知県生まれ。早稲田大学第一文学部卒。産経歌壇選者、NHK全国短歌大会選者。短歌甲子園特別審査員など。

若山牧水賞、斎藤茂吉短歌文学賞、迢空賞など受賞。歌集『憂春』『泥と青葉』等の他、『和歌で楽しむ源氏物語』等の歌書、入門書など、著書多数。



十月 四日（日）

第一回だいこくライブ・小林久美さん（東京都交響楽団）

ヴァイオリニン・リサイタル

いずれも場所は当神社社殿です。十月の第一回だいこくライブにつきましては、詳細が決まり次第、改めてご案内いたします。



お宮あれこれ～「縁起」～

よく、「縁起がいい」「縁起でもない」「縁起をかつぐ」などの言いかたをします。「縁起」とはどういうことでしょうか。今回は「縁起」について

お話しいたしましょう。

「縁起」ということばはもともと仏教用語で「あらゆるものは因縁によって生起して（起こって）いる」ということを表わしていました（これが短くなつて「縁起」ということばになつたようです）。これから、ものごとの起ころの因や由来という意味になり、やがて神社・寺院が建てられた由来、神社・寺院にまつわる伝説を表わすようになります。同時に、そういったことを記した文書もさすようになつたとのことです。ちなみに、寺院の縁起を記した絵巻として有名なのが「石山寺縁起絵巻」です。ご参考までに画像を載せておきます。

母を



助けるため身売りした娘が嵐に遭うのですが、一心に石山観音を念じたところ、白馬が現れ娘を水際まで引き上げてくれたという場面です。



さて、「縁起」ということばはその後、さらに使い方が変わり、物事が起ころる前の吉兆の兆候、つまり前兆を表わすようになります。そして、江戸時代になって

「縁起がよい」「縁起をかつぐ」などの言いかたが生まれました。同時に、縁起直しなどの習慣が広く庶民の間に広がつたようです。時代劇などで火打石で火花を起こす動作を見かけことがあります。

これは切火（きりび）を切るともいい、身を清めるまじないや、火が魔除けになるという信仰的な（お祓い）としての意味がありました。このようないかは江戸時代の中ごろくらいから行なわれていたそうです。

ところで、一般に「縁起物」というのは、もともとは注連縄・門松などの正月飾りだったそうです。その後たくさん種類の品物が見られるようになりました。神社・寺院とかかわりのあるものが多く、授与される



宝船、招き猫、達磨など、たくさんものがあります。



なお、当神社でお出ししている「金運守」は熊手・打ち出の小槌・鯛・金壺・招き猫・巾着・千両箱と、たくさん

の縁起物があしらわれてお



るものを持ち帰つて飾つておくと、神仏のご利益があるとされます。酉の市の熊手（写真上）、正月の破魔矢、初宮参りの際の大張子（写真下）などがあります。そのほか、



祭礼・祈祷などご案内

○次回甲子祭

平成二十七年八月十六日(日) 午前五時～正午

○開運千人講祈祷祭 毎月一日 午前六時～正午まで

○お祓いのお申し込み・お問い合わせなどは下記の電話番号にお願いいたします。不在の場合は、恐れ入りますが、留守番電話のメッセージのあとで、お名前・お電話番号・ご用件をお話しください。のちほどこちらからご連絡いたします。

○諸祈祷受付 商売繁盛祈願、心願成就祈願、厄除け、お宮参りなど、隨時祈祷を行なつております。祈祷日時については、お電話にてご相談ください。



〈お問い合わせ・お申し込み〉

○三二九一八一七九三〇(携帯) ○八〇一九八七一八七一六

eメール daikokujinja@gmail.com

次号発行予定

「だいこく通信第一十一号」、いかがでしたか。次号「秋の号」は、平成二十七年十月十五日の甲子祭に発行予定です。

「だいこく通信」第二十二号 平成二十七年六月十七日発行
編集・発行 大國神社社務所

〒一七〇一〇〇〇三 東京都豊島区駒込三一―十一
<http://www.daikokujinja.org>

(連載まんが)

大吉うさぎ ～神社しいとり～

くま こまち 作

